

『京急沿線の近現代史』の著者の小堀 聡先生が、交通図書賞をきっかけに神奈川新聞から電話取材を受けました。その記事が2020年4月20日の地域総合欄に掲載されました。



交通図書賞に小堀さん

京急沿線の近現代史伝える

横須賀出身

横須賀市出身で名古屋大学准教授の小堀聡さん(40)が出版した「京急沿線の近現代史」が令和最初の「交通図書賞」を受賞した。一昨年2月に創立120周年を迎えた京急電鉄の歩みを通じ、日本の都市部や周辺の発展をひもとく内容が高く評価された。

同賞は公益財団法人交通協会や交通新聞社などが、交通事業に関する優れた書物を顕彰しようと19

75年度から始めた。令和元年度は110冊が審査対象となり、「経済・経営」「技術」「歴史」「一般」の4ジャンルで審査。小堀さんの著書は「歴史部門」の第1位となった。

同書は品川から三浦海岸までの沿線地域ごとに章を立て、発展ぶりや市民生活の変遷などを紹介。赤地に白線という京急の車両を模した表紙も特徴だ。

国土交通省、鉄道総合技



交通図書賞を受けた「京急沿線の近現代史」を手にする小堀さん

術研究所などの専門家による審査では「膨大な資料を丹念に検証し、多様性に富んだ地域発展の経緯をたどることで、鉄道整備と地域開発の関わりを明らかにした。同社および同社沿線の全く新しい近現代史をまとめ上げた」と講評された。

小堀さんは県立横須賀高校出身で実家は同線新大津駅の近く。京都大学から大阪大学大学院などを経て現職に就き、日本経済史と環境史を研究している。父親は横浜市鶴見区長やパシフィック横浜の社長を務めた卓さん。

「自分も親も長年の京急の利用者で電車や地域への愛着があった。だから集めた資料もしっかり読み込め、生かせたと思う。故郷を離れて客観的な視点で検証できたことも大きい。創立150周年にも沿線史を書きたい」と話している。クロスカルチャー出版の発行。A5判174ページで1980円(税込み)。

(有吉 敏)